## ケネス・W・コールグローヴ発牧野伸顕宛書翰

太平洋戦争中のジョセフ・C・グルーの役割をめぐって―

解題

はじめに

であろうか。 日米開戦後、米国に戻った駐日大使グルー(Joseph C. Grew, 1880-1965) 日米開戦後、米国に戻った駐日大使グルー(Joseph C. Grew, 1880-1965)

書翰である。 1886-1975)から元内大臣牧野伸顕に送られた、一九四六年五月三十日付の1886-1975)から元内大臣牧野伸顕に送られた、一九四六年五月三十日付のイ州ノースウェスタン大学教授コールグローヴ(Kenneth W. Colegrove,本稿で紹介するのは、そのグルーと同じ立場であった人物の一人、イリノ

コールグローヴの経歴

高

橋

勝

浩

( 104 )

挙げられる。なお、 ての日本」("Japan as a totalitarian state", Amerasia., March, 1938.) などが affairs books., No. 16., 管理』(一九三〇年)、『日本における軍国主義』(Militalism in Japan, World 吉の著書 でノースウェスタン大学政治学部研究嘱託であった大山郁夫をして美濃部達 著書や論文として『アメリカ市民とその政府』(一九二一年)、『国際航空 『逐条憲法精義』を翻訳せしめた。 (3) 日本の天皇や憲法についても研究し、 , World Peace Foundation., 1936.)、「全体主義国家とし アメリカに亡命中

## 書翰発送の経緯

問となって一九四六年三月二十二日に来日したのである。 後日本の降伏が実現すると、コールグローヴは連合国最高司令官マッカー は旧知の国務次官グルーに書翰を送り、日本にポツダム宣言を受諾させるた めには天皇制の存続が必要であるとしたグルーの努力を称賛していた。その た一九四五年八月十三日、 ポツダム宣言の受諾をめぐって日米両国間で最終的なやり取りがなされて (Douglas MacAuthur)を補佐するため、 極東問題の専門家として名高いコールグローヴ GHQ憲法問題担当政治顧

う<sub>。5</sub> ヴに牧野を紹介したのは、 歳の牧野を千葉県東葛飾郡田中村の疎開先に訪ねた。グルーがコールグロー 最大の紳士の一人として、いつまでも尊敬する」と評価していたからであろ 五月二十九日、 コールグローヴはグルーからの紹介状を携え、当時八十五 駐日大使時代に親しく交際し、「牧野伯爵を世界

ールグロ この時、 戦後の皇室と天皇の処遇問題に最大の関心を抱いていた牧野は、 ーヴを歓待し、 戦時中のグルーの生活について熱心に尋ねたとい

> 細に伝えた上、日本の立憲政治に対するグルーの理解は牧野からの示唆に 日本のポツダム宣言受諾に至るまでの長期間、 う。これに対してコールグローヴは、 文書にするよう求めたのである。 ている。この発言から戦後の皇室と天皇の処遇問題に光明を見出した牧野は、 よって形成されたものであるという意見を付け加えた、と先行研究は指摘し コールグローヴに謝意を表明するとともに、 (Owen Lattimore) 率いる天皇制廃止論者達に対するグルーの闘い振りを詳 国務省の政策形成について、とりわけ 改めてグルーの帰米後の活動を オーウェン・ラティモア(6)

## 書翰の内容

米後における活動の要旨を翌五月三十日付で認めた。それが、本稿で紹介す る書翰にほかならない。 コールグローヴは帰京後、 牧野の求めに応じ、会見時に述べたグルーの帰

込まれている。 (式部職、 書翰は邦訳文とその英文からなり、 昭和二十一年、識別番号九九一二四五)に第二号文書として綴じ 当部宮内公文書館所蔵の 『外交雑録

国立国会図書館憲政資料室所蔵の『牧野伸顕関係文書』(書翰の部六七二― UNIVERSITY, COLLEGE OF LIBERAL ARTS, EVANSTON, ILLINOIS 署名入り書翰はノースウェスタン大学教養学部政治学科 DEPARTMENT OF POLITICAL SCIENCE) に印字されたものである。なお、後者の原本に当たるコールグローヴの自筆 应 前者は宮内省一号罫紙に墨書され(【史料写真】参照)、 に収められている。 その中には、 コールグローヴから牧野の女婿に当 用箋にタイプ印刷されたもので、 (NORTHWESTERN 後者はタイプ用紙

に届けられたことがわかる。以下、 プ)が添えられていることから、コールグローヴの書翰が吉田を通じて牧野 たる内閣総理大臣吉田茂 (兼外務大臣)に宛てて送られた依頼状 書翰の内容を邦訳文によって紹介してみ (英文タイ

よう。

との度重なる会談によって形成されるところが大きかったと、グルーがしば 出を連合国が受理したことでグルーの計画は頂点に達したといえる旨を指摘 もグルーが敢然としてその主張を枉げず、その政策の正当性をルーズヴェル 天皇に対する力の行使を要求した官僚・専門家・新聞から痛烈に攻撃されて 避けるべしとする政策の指導者となり、 しば自分に語っていたことを付言したのである。 した。その上でコールグローヴは、 に成功し、一九四五年八月、いわゆる国体護持を条件とした日本の降伏申し ト、トルーマン(Harry S. Truman)の歴代大統領をして納得せしめること 確保維持できることを絶えず主張したと述べた。さらにコールグローヴは、 に対する非難・攻撃、 D. Roosevelt)から深く信任され、国務省にあってアメリカ政府による天皇 コールグローヴは、一九四三年に帰国したグルーがまもなく国務次官に就 当時の国務長官ハル あるいは天皇と日本国民との関係に対する干渉は一切 (Cordell Hull)や大統領ルーズヴェルト(Franklin 皇位の性格に関するグルーの理解は牧野 対日講和は天皇を通じて最も容易に

導部に伝わっていたグルーの主張や行動についての情報が、ここに確かな筋 任の一九四四年五月のことであるため、 から正確な情報としてもたらされたことになる。 であろう。 グルーのアメリカ帰国は一九四二年八月、 とはいえ、 戦時中にアメリカのプロパガンダという形で日本の指 書翰の冒頭部分の記載は訂正が必要 国務省復帰は極東局長就

に託された。

になした大いなる助けをご存知になると大いに喜ばれると思います。 で、 知っています」と、 人的に、陛下がグルー氏の人となりと見解を常に高く評価されていたことを この書翰を受け取った牧野は、 いずれは陛下に奉ることになるでしょう。グルー氏が我々の大義のため コールグローヴに返書を送っている。(8) 「価値ある歴史的文書であると考えますの 私は個

民に送付され、宮内省の記録に留められたいとの申し入れによって翻訳の上 六月二十日非公式に昭和天皇の御覧に供されたのである。 かくして、コールグローヴの牧野宛書翰の写しが吉田から宮内大臣松平慶

## コールグロ ーヴの謁見

見したのである。
(9)
七月十二日午前十時五分、宮内省内廷庁舎表拝謁ノ間において昭和天皇に謁 では終わらなかった。帰国するコールグローヴはマッカーサーの許可を得て、 ところが、牧野は昭和天皇の側近中の側近であっただけに、 話はこれだけ 106) (

なお、 たことを遺憾としつつも、グルーが平和の維持に努力したことに満足の意を アリスに梨子地秋草文様光琳蒔絵手箱が下賜され、 らに戦時中に御自身が平和回復のために努力したことにも言及されたという。 の意と、帰国後の日本に対する慈悲深い政策に感謝の意を述べられた後、 表され、ついでグルーが出国する時に丁重に待遇されなかったことへの遺憾 ローヴに託されたといわれている。その中で天皇は、まず両国が戦争となっ 先行研究によれば、その際、 天皇からグルーに梨子地和歌浦蒔絵硯箱が、 昭和天皇はグルーへのメッセージをコールグ 帰国するコールグロ 香淳皇后からグルー夫人 ーヴ

天皇は、コールグローヴに対する印象を「誠ニ立派なる学者と見受たり」 大子時代の大正十五年五月二十一日、岡山公園において鳩に餌む手領すされている。コールグローヴの謁見とグルーに対する賜品については、吉田されている。コールグローヴの謁見とグルーに対する賜品については、吉田されている。コールグローヴの謁見とグルーに対する賜品については、吉田されている。また後、グルーのもとに届けられた。

はありません。にもかかわらず、私は、天皇の誠実さと健全な常識に感心い されたと考えているのでありました。明らかに天皇裕仁は、迫力ある人物で やローズヴェルト大統領、グルー大使、トーマス上院議員によってつくりだのローズヴェルト大統領、グルー大使、トーマス上院議員によってつくりだ もしれないと警告したのである。 よって変更されるならば、日本国民を混乱・困惑させ、ひいては禍を生むか あるとして支持する反面、 だマッカーサーによる日本の新憲法起草方針は時宜に適っており、賢明でも 告した。その上でコールグローヴは、天皇制存続(象徴天皇制)を盛り込ん(ધ) たしました。連合国最高司令官マッカーサー元帥と話し合ったさいに、 について、心からの謝意を私に表明いたしました。天皇は、その方針は閣下 し、天皇に謁見した際の印象について、「天皇は、日本に対する寛大な方針 七月二十二日離日したコールグローヴは、 天皇裕仁に対して同様の感想を抱いていることを知りました」と報 仮にもこの方針がワシントンにある極東委員会に 帰国後、大統領トルーマンに対 同司

アメリカ政府内において天皇制存続を主張するグルーらのグループの存在と以上のように、コールグローヴの書翰と謁見によって、昭和天皇や側近は、

からぬ影響を及ぼしたのである。 就の牧野とグルーとの交友関係が、戦後の天皇制処遇問題についても、少な 報ともいえる情報に一筋の光明を見出すとともに、今後とも日本が採るべき 報とをいえる情報に一筋の光明を見出すとともに、今後とも日本が採るべき

図書館所蔵の英文原本を翻刻の上、紹介することとしたい。と返書したことは指摘されていたが、実際に書翰が天皇の御手許に届けられたか否かは判然としなかった。しかし、これまで述べてきた経緯に鑑みれば、たか否かは判然としなかった。しかし、これまで述べてきた経緯に鑑みれば、たか否がは判然としなかった。しかし、これまで述べてきた経緯に鑑みれば、まわめ所蔵の『外交雑録』の中に収録されていることを確認できたことは、きわめ所蔵の『外交雑録』の中に収録されていることを確認できたことは、きわめの書館所蔵の英文原本を翻刻の上、紹介することとしたい。

註

- (平成十九年七月)に収録されている。(平成十九年七月)に収録されている。(主義国家としての日本」についても、内山氏による邦訳が同誌第八十巻第七号治・社会』第七十九巻第二号~第三号(平成十八年二月~三月)に、また「全体タリズム」(一)(二)が慶應義塾大学法学部法学研究会『法学研究 法律・政(1) 『日本における軍国主義』については、内山秀夫氏による邦訳「日本のミリ
- 六十号(平成二十六年、三一~五六頁)がある。憲法下における帝国議会の発展―コールグローヴ博士の考察―」、『筑波法政』第(2) コールグローヴの明治憲法観を分析した先行研究として、松澤幸太郎「明治
- (3) 当部宮内公文書館所蔵『謁見録』(式部職、昭和二十一年、識別番号一一三

八八)、第七号文書、及び内山前掲邦訳「日本のミリタリズム」(二)を参照

- (4) コールグローヴの来日中の活動については、 央公論社、平成十六年、 二一八~二五四頁)に詳しく描かれている。 古関彰一『新憲法の誕生』 中
- (5) ジョセフ・C・グルー著/石川欣一訳『滞日十年』上巻(毎日新聞社、 昭和
- (6) オーウェン・ラティモアの主張については、彼の回想録『ラティモア 二十三年、二〇九頁)、一九三五年五月二十二日条 中国
- (7) Haruo Iguchi, "Kenneth Colegrove and Japan, 1927-1946"., 『同志社アメリカ 研究』第四十三号、平成十九年、一~三一頁。 と私』(磯野富士子編・訳、みすず書房、平成四年、二三二~二三三頁)を参照。
- 8 廣部泉『グルー―真の日本の友―』、ミネルヴァ書房、平成二十三年、三〇
- (9) 宮内庁編修『昭和天皇実録』第十(東京書籍、 昭和二十一年七月十二日条。 平成二十九年、一六〇頁)、
- Iguchi, op. cit., p. 22., 廣部前揭書、三〇六頁。
- 一)、第一八二号文書。 宮内公文書館所蔵『贈賜録』(侍従職、昭和二十一年二、識別番号六八六〇
- 業財団編・吉田茂著『吉田茂書翰』、中央公論社、平成六年、六七二~六七三頁。 昭和二十一年七月十三日付吉田茂発牧野伸顕宛書翰、財団法人吉田茂記念事
- 13 編集室「御写真の解説 平和の象徴」、皇宮警察本部警務部教養課編集・発
- 『済寧』昭和二十七年四月号、二〇~二一頁。
- 14 前掲『吉田茂書翰』、六七二~六七三頁
- 15 16 平成二年、五六九~五七○頁)、資料199 山際晃・中村政則編/岡田良之助訳『資料日本占領Ⅰ 廣部前掲書、三〇六頁。 天皇制』(大月書店、

〔ケネス・コールグローヴ教授からト

17 茶谷誠一 『牧野伸顕』、吉川弘文館、平成二十五年、二〇七~二〇八頁

ルーマン大統領あて〕、一九四六年七月二十九日。

史料一 コールグローヴ発牧野伸顕宛書翰訳文 (一九四六年五月三十日付)

(表紙)

米国ノース、ウェスタン大学教授ケネス、コールグローヴヨリ牧野伯爵宛書

**秘**第

(欄外朱印)

御覧済

訳文

千九百四十六年五月三十日

於東京第一ビルディング

ケネス、コールグローヴ

牧野伯爵閣下

**拧啓 ジョセフ、シー、グルー氏に関し御話し申上げ候件を、昨日御要望相** 

成候ま、書面に認め候事は小生の欣幸とする所に御座候。

する政策の指導者と相成候。グルー氏は日本との平和は日本の天皇を通じてし或は攻撃し若くは天皇と日本国民との間に干渉することを一切避くべしと国務省に於ける此の地位に在つてグルー氏は、米国政府は日本の天皇を非難の国務長官コーデル、ハル氏及ルーズベルト大統領より深く信任せられ候。グルー氏は千九百四十三年帰国後、幾許もなく国務次官に任命せられ、当時

最も容易に確保維持せらるべき事を絶へず主張致候

ルー氏の立場は、

天皇に対し力の行使を要求せし諸官僚・専門家・新聞よ

() り痛烈に攻撃せられ候処、同氏は敢然としてその主張を枉げず、彼の政策の り痛烈に攻撃せられ候処、同氏は敢然としてその主張を枉げず、彼の政策の に御座候。敬具

記事()

ノースウェスタン大学教授ナリ。
レ度趣申入アリタルヲ以テ、非公式ニ御覧ニ供シタリ。尚、本人ハ米国一、本件ハ吉田外務大臣ヨリ松平宮内大臣宛送付越、宮内省ノ記録ニ留メラ

大臣、式部頭承知。

昭和二十一年六月二十日

コールグローヴ教授ハ七月十二日、天皇陛下ニ謁見仰付ラレタリ。

史料二 コールグローヴ発牧野伸顕宛書翰英文(一九四六年五月三十日付)

611 Dai Ichi Building

May 30, 1946

Tokyo

国 (109)

His Excellency Count Makino

Tanaka, Chiba

Dear Count Makino:

what I said about Joseph C. Grew-I am glad to indicate in writing, as you requested yesterday,

peace with Japan could most easily be secured and maintained through the Emperor and the Japanese people. Mr. Grew constantly contended that of or attack upon the Emperor of Japan or any intervention between the policy that the American Government must refrain from any denunciation this position in the State Department, Mr. Grew became the leader of the Japanese Emperor Cordell Hull, and President Roosevelt placed great confidence in him. In was appointed Under-Secretary of State. The then Secretary of State, Mr. Shortly after his return to the United States, in 1943, Mr. Grew

Emperor. He stubbornly stood his ground, and succeeded in convincing experts, and newspapers who demanded the use of force against the President Roosevelt and later President Truman of the correctness of his Mr. Grew's position was bitterly assailed by various officials

> Imperial Throne in Japan. condition that the Allies would not bring about the overthrow of the Grew's arguments led to the acceptence of Japan's offer to surrender on This program reached its climax in August 1945 when Mr.

by means of his many conversations with you. understanding of the character of the Imperial Throne was largely secured I should add that Mr. Grew has frequently told me that his

With high regards and esteem, I am

Kenneth Colegrove

史料三 コールグローヴ発吉田茂宛書翰英文(一九四六年五月三十日付)

611 Dai Ichi Building

May 30, 1946

Tokyo

Foreign Office His Excellency Shigeru Yoshida Prime Minister of Japan

Tokyo, Japan

Dear Mr. Yoshida:

I am taking the liberty of sending you a letter addressed to Count Makino. I will be grateful if you will transmit it to him.

When I called upon Count Makino yesterday in the village of Tanaka, he asked me to give him a written statement about Mr. Joseph C. Grew, and to forward this statement to him through your good offices.

I am pleased to comply with his request which, I hope, will not be a burden to you.

With high regards and esteem, I am

Enclosure